

## 1. 略歴

- 1972年3月 千葉県立千葉高校卒業  
1977年3月 東京大学文学部第1類（美学芸術学専修課程）卒業  
1980年3月 東京大学大学院人文科学研究科修士課程（美学芸術学）修了  
1983年7月 東京大学大学院人文科学研究科博士課程（美学芸術学）単位取得退学  
1983年7月 東京大学文学部助手（美学芸術学）  
1986年4月 玉川大学文学部専任講師（芸術学科）  
1991年4月 玉川大学文学部助教授  
1992年4月 大阪大学文学部助教授（音楽学）  
1996年4月 東京大学大学院人文社会系研究科助教授（美学芸術学）  
2001年7月 博士（文学）学位取得（東京大学）  
2002年1月 東京大学大学院人文社会系研究科教授

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野

聴覚文化論、音楽社会史

### b 研究課題

1. 音の文化の伝承、受容、流用にかかわるプロセスとメカニズムの歴史研究による解明。これまで、音楽を「文化」として捉えるという観点から、西洋芸術音楽の「近代化」とテクノロジー、西洋芸術音楽における演奏伝統の形成とその伝承メカニズム、日本近代の音楽文化におけるメディアや言説といったテーマでの研究を進めてきたが、最近では「音楽」という枠をこえて、「音楽」以外の音も含めた様々な音が形作る「音の文化」の研究を軸に、「感性文化」という観点から、人々の形作ってきた歴史を描き直す試みを行っている。
2. 「聴覚文化」という観点からの日本戦後史の再検討。上記の問題意識をふまえた一種の応用問題として、現在は「1968年」を中心とした日本戦後史を「感性文化」の変化の歴史として捉え直す研究に取り組んでいる。「1968年」は近年、戦後史の転換点となった年として注目されているが、この前後の時期は、政治的な意味での転換点にとどまらず、人々の感性のあり方や志向が大きく変化した時期でもあったのではないだろうか。そのような問題意識をふまえつつ、同時代のドキュメンタリー音源、ドキュメンタリー映像やそれに関わる様々な言説などを主要な題材として、その変化についての分析を進めている。
3. 場所の表象、記憶の生成・変容のメカニズムやそれに関わる多様な文化的コンテクストの相互作用の解明および芸術作品や感性的体験がその過程で果たす役割の考察。作品体験と現実の都市の表象とを媒介する場としての文学散歩、映画のロケ地巡りといった営みの考察、廃墟趣味や路上観察の見直し等の試みを起点に、主に写真や映像による表象の分析を通して、様々な立場や観点がぶつかり合い、また離合集散しつつ変容してゆく場としての文化のありようを捉えることを目指している。

### c 主要業績

#### (1) 著書

『サウンドとメディアの文化資源学—境界線上の音楽』、春秋社、2013.10、pp.552

#### (2) 論文

“Takarazuka and Japanese Modernity”, in: Hugh de Ferranti and Alison Tokita (eds.), *Music, Modernity and Locality in Prewar Japan: Osaka and Beyond* (SOAS Musicology Series), Surrey: Ashgate Publishing, 2013.9, pp.193-209

#### (3) 学会発表・講演記録等

『『オフィシャル』と『アンオフィシャル』とのはざままで—近代日本の音楽文化と音楽教育の死角』（第43回日本音楽教育学会大会報告）、『音楽教育学』第42巻第2号、2012.12、pp.15-21

「宝塚と民俗芸能—『日本民俗舞踊シリーズ』をめぐって」（第64回舞踊学会大会報告）、『舞踊学』第36号、2013.12、pp.54-61

#### (4) 書評・解説

吉見俊哉著『声の資本主義—電話・ラジオ・蓄音機の社会史』（河出文庫版）、同書巻末解説、2012.5、pp.341-345

(5) その他の寄稿

「ラジオの文化と『非公式』な担い手たち」、『アステイオン』第76号、2012.5、pp.148-151

「タイタニック号の音楽—史実とフィクションのはざままで」、『アステイオン』第77号、2012.11、pp.154-157

「耳で聴いたオリムピック—1964年・聴覚文化の変容」、『アステイオン』第78号、2013.5、pp.206-209

「日本橋の上に架かる高速道路は『景観破壊』か?」、『アステイオン』第79号、2013.11、pp.108-111

「『価値』の生み出される現場へ—『サウンドとメディアの文化資源学—境界線上の音楽』の刊行によせて」、  
『春秋』2013年11月号、pp.7-10

(6) 学会発表・講演等

「『オフィシャル』と『アンオフィシャル』とのはざま—近代日本の音楽文化と音楽教育の死角」、第43回日本音楽教育学会大会、基調講演（大会実行委員会企画シンポジウム「音楽教育と音楽文化の〈100年〉、そして〈これから〉」）、東京音楽大学、2012年10月7日

「宝塚と民俗芸能—『日本民俗舞踊シリーズ』をめぐって」、第64回舞踊学会大会（大会テーマ：宝塚—ピアノで踊る日本舞踊）、基調講演、東京大学、2012年12月1日

(7) 受章

紫綬褒章、2013年5月

### 3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

大学訪問授業「音楽は誰のもの?—文化としての著作権」、桐光学園高等学校、2013年11月9日

(2) 学会

日本音楽学会、会長、2013年4月～

美学会、委員、2012年4月～

文化資源学会、理事、2012年4月～2014年6月～

(3) 学外組織（学協会、省庁を除く）委員・役員

サントリー文化財団、サントリー学芸賞選考委員、2012年4月～

企業メセナ協議会、助成認定審査委員、2012年4月～